

「育ての心」で語りあう

～動画を囲んだDX時代のカンファレンス～

デジタルトランスフォーメーション



「餅を丸める」

▶ Vol.2 コミュニティーと心地よさ(上)



「餅つき3」



「将棋を指す」

この連載では、保育動画を囲んで、保育者、研究者、保護者、子どもに関心のある人、関心のあまりない人、いろんな人が語りあっていきます。

今回のメンバーは5人です。ウッディキッズ（以下、ウッディ）の保育者である溝口義朗さん、平賀努さん（次号「(下)」に登場）。保護者である中村則仁さん、野村幸子さん。そして、研究者である久保健太です。溝口さんは「よっちゃん」とも呼ばれています。中村さんは市議会議員を、野村さんは種苗屋さんをしています。

（構成：久保）



「コミュニティにおける響き合い、感じ合い」

溝口 まずは、三つの動画を見てもらいましょう。「餅を丸める」「餅つき3」「将棋を指す」の動画です（いずれも上掲2次元コードから視聴できます）。それぞれ、餅を丸めている子どもたち、餅をついている子どもたち、将棋を指している子どもたちの動画です。

今日は、一つの活動を深く見るよりも、その活動を取り巻くコミュニティの総体を見たい。「餅を丸める」の動画を見てもらうとわかるのですが、餅つきをやっている子どもたちがいながら、同時に火を焚いている子どもたちがいて、園の中ではお餅を丸める作業をしている。「将棋を指す」の動画の子どもたちは、お餅を丸めている子どもたちの横にいる。園全体の中のコミュニティが実は響きあいながら、感じあいながら、餅をついている。

餅つきを通じて、遊びや伝統を伝えます、

溝口義朗 東京都認証保育所ウッディキッズ。
中村則仁 あきる野市議会議員。
久保健太 関東学院大学教育学部専任講師。

平賀 努 東京都認証保育所ウッディキッズ。
野村幸子 野村植産株式会社。

という保育なら、とても見栄えはいいんだけど、個々の活動が分断されちゃう。

それよりも、将棋の子も、餅つきの子も、園の中でつながりあいながら、個々の活動が行われている。それを大事にしたい。

中村 よっちゃん、餅つきの動画、もう一回見せてもらっていい？

一同 (「餅つき1」を見る)

中村 ここだとシヨウタは後ろに立ってるだけだね。

久保 シヨウタ君って、きねを持つ4人の後ろに立っている子ですか？

溝口 そう。続きも見せますね。

一同 (「餅つき2」を見る)

中村 シヨウタはまだ左手だけでやってるんだ。

一同 (「餅つき3」を見る)

中村 お、シヨウタが入ってきた。

久保 シヨウタ君って中村さんの

ところの子ですか。

中村 ううん(違う)。

久保 すごいね。今、中村さんが、自分の子のようにシヨウタ君を語っているのが。

溝口 そう。ウッディの親は「自分の子どもだけ」じゃないの。

久保 ですね。

中村さんがシヨウタ君をよく知っているっていうのが口ぶりからわかります。



▲「餅つき3」から。シヨウタ君(きねの後ろに顔が見えている子)が入ってきたところ。

うすのちゅー もののちゅー

野村 うちの3歳の子は、餅つきには入らなかった。参加しなかったんだけど、最近もずっと「餅をつく、餅をつく」って、家で言っているわけ。

溝口 へー、それ面白い。

野村 ソウ君っていうんだけど、「ソウ君やらなかった。お餅つきたい」って言うの。だから、参加してなかったってことも自分の中で覚えていて。

溝口 空間に一緒にいるとき、参加していることも参加していないことも実は一緒に、参加しているのよね。参加していないんだけど。
久保 そうそう。参加してないんだけど、参加している。

野村 「餅をつく」は年末からお正月、ひとしきりずっと言っていた。

久保 動画の餅つきは年末ですか？

溝口 そう、年末。

野村 自分の中で反すうして、思い出したことがあるんじゃないかな。

久保 そうでしょうね。

たぶん来年4歳になった

ら、あの輪のどつかにいるんでしょうね。

野村 ね、いるのかもしれない。

中村 やらなさそう。(笑)

久保 やらないんだ(笑)。そういう子なの？
(笑)

野村 皆がわーっとやっているところに、そんなにいくほうじゃないしね。

久保 今、中村さんが野村さんのお子さんのことを「やらなさそう」って言ったのも、すごいすよね。そこまで、ほかの家のお子さんでもわかつちやっているということなんですか？

中村 たぶん。でも僕、割と保護者の中でも



▲野村さんとソウ君

出入りしている時間、多いよね。滞在している時間が長い。タツちゃんか僕が一番じゃないかな？

久保 タツちゃんって？

野村 うちの夫。(笑)

中村 たぶん、いる時間は一番多いほう。昨日もここで横になって、ウッデイの子どもと積み木で遊んだり、邪魔したりしていたから(笑)。ほとんどの子とは、それなりにコミュニケーションを取っています。

溝口 ウッデイは、保護者の滞在時間は長いんじゃないかな。中村さんも野村さんも長いし、ほかの保護者も長いよね。自分の子どもの迎えのときに、よその子どもと遊んでいる姿が多い。

不便を当たり前にする

久保 ウッデイの滞在のしやすさっていうのは何なんですかね。それを知りたくなってきた。

た。僕もウッデイに來ると、いつもゴロゴロしちゃうんですよ。さつきも、僕がゴロゴロしているところを中村さんが見て、「腰、悪いんですか」って(笑)。腰が悪いわけじゃなくて、体が暖まるように、日なた見つけて、そこで寝そべっていたんです(笑)。とはいえ、寝そべるなんて、よっぽどですよ。ウッデイに來ると、スイッチが解除される感じがあらんですよね。

溝口 少し種明かししちゃうとね、毎日連絡帳を書いているでしょ。その連絡帳に、書いた保育者の名前を、わざと書かないようにしているの。だけど、毎日繰り返し連絡帳をやりとりしていると、誰が書いたのかわかってくるのよ。これはつとむ君の字だ、これは誰々の字だ、ってね。

野村 わざと名前を書いてないんだろぅな、とか、わざとホームページがないんだろぅな、っていうのは、保護者からも感じます。不便

を当たり前にして、知らないことを当たり前にして、お互いに聞きながら知っていく。そういうのが面白い。

溝口 そういうことをやっていたら、第三者評価のランキングは下位になっちゃう。(笑)
野村 ただ、私にはすごく面白い。お膳立てしてくれるような園もありますが、そういった園よりも、居心地がいい。

久保 確かに「不便を当たり前」しておけば、知らないことが当たり前だし、恥ずかしいことじゃないから、「困ったよ」「教えてよ」が気兼ねなく言えますよね。

溝口 居心地の良さって、居心地の悪さと同居しているなとすぐ思っている。園の中も雑然としている。ただ、それは汚れてるっていうよりは、田んぼや畑と同じ雑然さ。畑の中を歩いていると、いろんな植物が雑然と生えていて、そこからセリとかドングリとか見つけるでしょ。ある程度の整頓された雑然さ

っていうのかな。

中村 本当にそう思う。仕事柄、小学校、保育園、幼稚園も見せていただいたりするけど、ぴしつとしているところも多い。ぴしつとしていることは、悪いことじゃない。だけど、家庭と保育園との接続ってことを考えると、ウッデイにあるような、家の暮らしや生活とつながっている雑然さって大事だと思う。どこの家もそんなにきれいいじゃないね。(笑)
ウッデイには、ホームセンターに売っているような家具が置いてあるから、僕からすると、家での暮らしと仕切りがない感じがする。

雑然さと心地よさ

溝口 雑然さって、心地よさのキーワードだと思う。雑然としている限り、動かなきゃいけないんです。遊んだら、散らかるでしょ。それをまた戻したりする作業があつて、それがまた散らかる。

いろんなもの同士を一緒になって元に戻したり、また散らかしたり、戻したりっていう運動をやらなくちゃいけない。

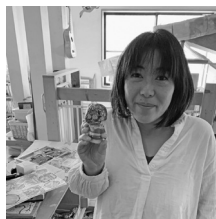
そうすると、きれいな状態も、散らかった状態もあり得るんだけど、いろんな状態、多様な状態があるっていうことが大事で、それが心地よさだと思う。

久保 確かに。この間、子どもを連れてカフェに行ったら、ものすごく疲れたんです。そういうことですね。高級ホテルのような快適さをそのカフェはつくろうとしている。ただ、子どもを連れて入ると、ものすごく疲れる。(笑)

子どもを連れて入るには、ファミレスよりもっと雑然としているくらいの店のほうがいい。わが家が子連れでよく行くのは昔ながらの中華料理屋さんです。近所に、釣りを終えた人たちが来るような中華料理さんがあって、そこでおじさんたち、おばさんたちに混じって食べてるのが一番楽なんですよ(笑)。

カフェよりも、よっぽど快適。そういうことです。

(2021年1月10日 ウッディキッズにて)



▲野村さん



▲(左から)中村さん、溝口さん、平賀さん、久保。

以下、秋号(下)に続きます。